

# 平成24年 水稻管理情報

No.4 (6月15日発行)

## 平成24年産水稻の生育状況

6月15日現在以下のとおりとなっています。

	現在		今後の作業
5月上旬移植	：有効分げつ期	→	<b>中干しの実施</b>
5月下旬以降移植	：活着期～有効分げつ期	→	<b>間断灌水</b>

## 中干しまでに必要な茎数を確保しましょう

現在は茎数を増やす「有効分げつ期」ですが、茎数が増えすぎると米の品質低下の要因となります。必要茎数が確保されたら、中干しの開始時期です。必要茎数はヒノヒカリ：350本/m<sup>2</sup>、ひとめぼれ：400本/m<sup>2</sup>程度です。下表を参考にして、中干し開始時期を見極めましょう。

表：中干しを開始する茎数の目安

(ヒノヒカリ：目標穂数 350 本/m<sup>2</sup>)

条間 (cm)	株間 (cm)	1坪あたり株数 (株/坪)	1株あたり茎数 (本/株)
30	16	70	<b>17</b>
30	18	60	<b>19</b>
30	22	50	<b>23</b>
30	26	42	<b>27</b>
30	30	37	<b>32</b>

平均的な生育の株の茎数を  
10株程度数えてみましょう



※ひとめぼれでは左表の  
3本増程度です

### ◆◆中干しの効果◆◆

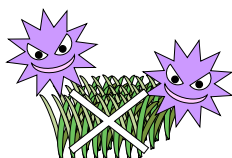
1. 過剰な分げつの発生を抑える  
～無効分げつを減らして、無駄なエネルギーを使わない～
2. 土壌中に溜まったガスを抜いて、酸素を供給する  
～根を活性化させ、元気な稲体づくり～
3. 土壌を硬くして、作業性を向上させる  
～穂肥、収穫時に楽々作業！～

中干しは2週間を目安に、途中、乾きすぎたら、通し水を行ってください。



**置き苗は直ちに撤去！！**

田んぼに補植用の苗を置いていると、それがいもち病の感染源になる場合があります。速やかに撤去しましょう！



J Aおおいた竹田事業部 農産課	63-4994
豊肥振興局農山村振興部集落・水田第二班	63-1172